

トビタテ留学 JAPAN 11月レポート

岩手大学4年 千葉さりな

11月前半は、10月に引き続き、ハンティングデール小学校でインターンシップを行いました。一ヶ月間、この学校では5歳～12歳まですべての児童を関わらせていただき、ICT教育はもちろん、バイリンガル教育についても様々なことを学ばせていただきました。

そして、メルボルンでの生活も終わり、ブリスベンに移動する数日前、トビタテをマネジメントする文部科学省の船橋さんがメルボルンに来豪しました。そこでメルボルンに住むトビタテ生と船橋さんでお食事をする機会がありました。ランチとディナーに分けて行われ、私はランチに参加したのですが、私を含めてトビタテ生4人と船橋さんの5人でした。船橋さんは、一人ひとりの活動に耳を傾け、たくさんアドバイスをくださいました。ICT教育とバイリンガル教育に関してお話した際、スタディサプリの導入を勧めて頂きました。スタディサプリとはインターネットを用いた補助教材で授業の復習として多くの日本の小学生が使用しています。現在はハンティングデール小学校に検討いただいているところですが、もし導入できれば日本語に遅れがある児童の手助けにつながるかもしれません。



さらに、11月中旬からはアンジェラルムカレッジでインターンシップを行いました。この学校は全校生徒約30人の小規模でかつクリスチャンの学校でした。毎日宗教の授業であったり、登校後と下校時にはキリストの歌を歌ったりなど普段は体験できない宗教の文化を学びました。ICT教育の授業はこの学校でも入学当初から児童がITの使い方を学んでいて、主にテストでICTが用いられていました。テストでは、各自ヘッドフォンをしながら取り組み、その結果が自動的に教員のパソコンに反映されるシステムでした。

また、私はアシスタントで入ったのですが、教員が欠席した日があり、その代わりとして授業をして欲しいと言われました。そこで私は、折り紙を持っていたのでクリスマスにちなんだ折り紙の授業を低学年・高学年の2回行いました。特に、高学年の授業ではクリスマスツリーを3人1組で作ったのですが、1人1人家に持って帰りたいと言ってくれるほど人気だったので驚きました。授業の展開方法には改善点が多くありましたが、教材は折り紙を

選択して本当に良かったと思いました。2週間という短い期間でしたが、教員の方々や児童そして保護者の方々に歓迎していただき、とても充実した日々を過ごしました。

<高学年>

<低学年>



<ICT を使う児童の様子>



現在はゴールドコーストに移動し、グリーンアンドゴールドカレッジに來ています。1月の
実習に向けて、ICT も使いながらどのタイミングで授業に取り入れるのが効果的かを考え
ながら授業の方法を学習しています。